

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	English F		
英文授業科目名	English F		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 知能機械工学科		
担当教官名	社本 雅信		
居室	東1-807		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shamoto@bunka.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
読解力向上と自己表現力向上。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
「なし」

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>

<b>【教科書等】</b>
1. 創造の道（金星堂）1,300円2. ユニーク英作文2（成美堂）800円

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

上記教科書1を使い、次のことを行う。(ほぼ55分から60分間) 1. 数学・生物・化学・文学・歴史の多岐にわたる分野において、鋭い知性を発揮し、目覚ましい業績を残した科学思想家、ジェイコブ・プロノウスキーの著“ The Ascent of Man(人間の進化)”の一部を 取り上げ、英語の読解力の一層の向上を目指す。「動力を求めて」においては、18世紀後半に起こった世界史上主要な三つの革命、産業 革命、アメリカ独立戦争、 フランス革命は「力」の概念を大きく変え、自然はエネルギーを供給するものとして捉えられるようになって、政治 権力は平民の手に落ちた、と彼は解説する。「創造の道」においては、19世紀の自然淘汰による進化の理論と、20世紀に入ってから の 生命の起源についての 研究を扱っている。 毎回10人程度に訳読を担当してもらう。思考を重ね十分予習してくるよに。上記教科書2を使って、次のことを行う。(ほぼ25分から30分間) 2. 将来いろいろな場で英語を使うことが要求される。それに備えて、後期は長めの英文を一人で作ることができる ような訓練をする。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

後学期終了時の成績を100%としたとき、後期定期試験の占める比率は70から75%、平常点を25%から30%とする。平常点には、発表の出来具合、授業に対する取り組み方、小テスト(3から4回程度)の成績、出席率が含まれる。なお、1) 小テストを欠席すればその分は零点になる。 2) 欠席が後期授業回数の3分の1を超える場合は定期試験の受験資格を失う。

### 【オフィスアワー：授業相談】

金曜日4時半から5時10分

### 【学生へのメッセージ】

「ローマは一日にして成らず」 外国語の力は一朝一夕にしてつくものではない。授業にはきちんと出席し、予習・復習を心がけよ。LDCE、OALDなどの英英辞典を脇に置き、英語で思考する癖をつけよう。

### 【その他】